連載・青少年健全育成シリーズ　第273回

「子どもの「商品化」？」

青少年への声かけ・あいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第１日曜日は「家庭の日」
毎月第３日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

現在はあらゆるモノやコトが商品化される時代ですが、今回は子育ての商品化にまつわる問題の一端を取り上げたいと思います。

それは、親が自分の子どもを「商品」に見立ててしまうという傾向です。子どもの付加価値を高めて、将来、勤務する企業や事業所に、できるだけ高い値段で買ってもらえる「商品」に仕立て上げようとする考え方、と言ってもいいでしょう。これは、子どもの幸せを願う「親心」として、当然のことのようにも思われるかもしれません。ところが、ここにはいくつもの重大な問題があるのです。

まず、この考え方に基づく子育ては、親の望む子ども像や子育て観に縛られた、視野の狭い、押し付け型の子育てに陥りがちです。それでなくとも、現在の日本は少子化が進み、「自己責任」が不当に強調される社会ですから、こうした考え方は、以前にも増して強まっているようです。ところが、子どもが親の望み通りになることはありませんから、親は思うようにいかない子育てに苛立ち、不安を募らせながらも、孤立した子育てへと自らを追い込んでいくことになりかねません。

次に、この考え方は、親の意識のなかに、子育てを「成功」「失敗」という基準で評価する発想を呼び込んでしまいます。仮に、親の思い通りには子どもが育たず、不登校になったり、就職がうまくいかなかったという場合に、親が子育てに「失敗」したと考えてしまうと、子どもは救われません。現在の子ども・青年の多くが、「一度失敗すると後がない」と考えていることが明らかになっていますが、この問題にも一因があるように思います。

それでは、こうした問題を避けるためには、何が必要なのでしょうか。社会教育学者の佐藤一子氏は、現在の「子育て困難」を解明するなかで、「親自身も自己実現の可能性を追求しながら、子育て期をつうじていかにして人間らしい豊かさを実感し、共同的な関係を形成していけるのか」が肝要だと論じています。

まずは身近なところで、子育てについていろいろな考え方を持った、職業も違う親どうしが、気軽に飲食や娯楽を楽しみ合えるような場をつくってみましょう。ＰＴＡから派生した「父母会」といった形も考えられます。気軽な会話を通して、「そんな考え方もあるんだ」「そんな子育てもアリなんだ」と思えるほどに、親の心に余裕が生まれ、子育ては「豊か」で実りあるものになっていきます。

（都留文科大学教員：西本勝美）

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています（10,500部発行）ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課　秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	２カ月掲載
内面	２色刷り	10,280	２カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の６パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広　告　掲　載　欄

広　告　掲　載　欄